

Spinal Angiographyにおける3D-RA fusion

- 初回診断でTh11-L1 segmental a.より硬膜外静脈叢への流入を認め、Rt.Th11 segmental a.より3D-RAを撮影した (Figure.1)。
- 後日TAEとなり、Rt.Th12 segmental a.よりNBCAで塞栓し、Rt.Th11-L1レベルからのshuntは消失したが (Figure.2) Lt.Th12 segmental a.からの流入は残存。同部位より3D-RAを撮影した。

※ Spinal Angiographyではカテーテルが安定していない場合も多く、高速・高圧注入が難しい

注入速度：1.4[ml/s], 立ち上がり時間：1.0[s], x-ray delay：3.0[s]とした

※ 3D-RAを使用することで、椎体の情報を残しつつ、血管を強調した画像も作成できるようにした

- Lt.Th11-12レベルの吻合があり、Lt.Th11 segmental a.より脊髄動脈へのfeedingを認める (Figure.3)。
- 3D-RAのfusion画像により全体像を描出 (赤：Rt.Th11 / 青：Lt.Th12)、それぞれが異なる部位に流入しているのが分かる。 (Figure.4, Figure.5)

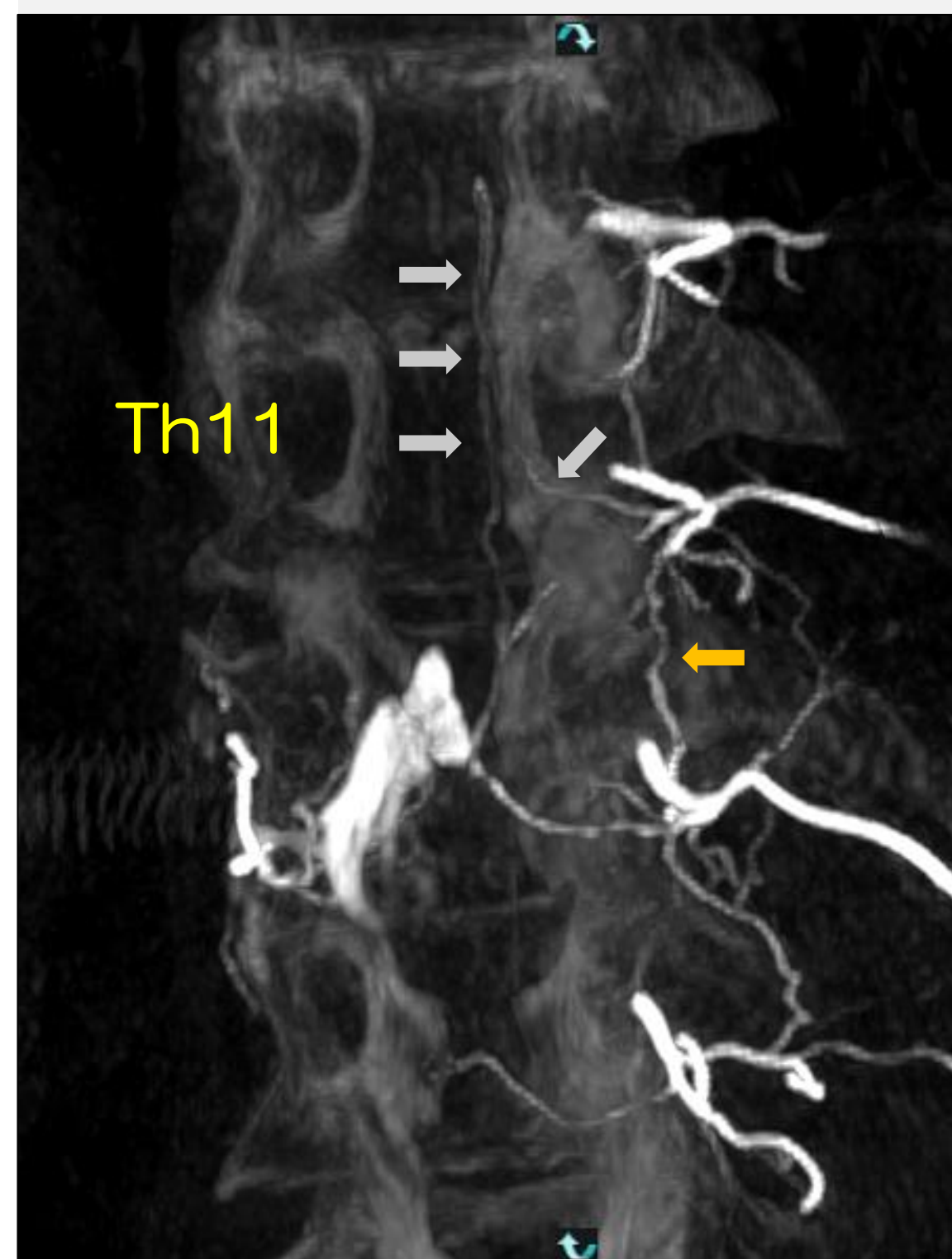


Figure.3

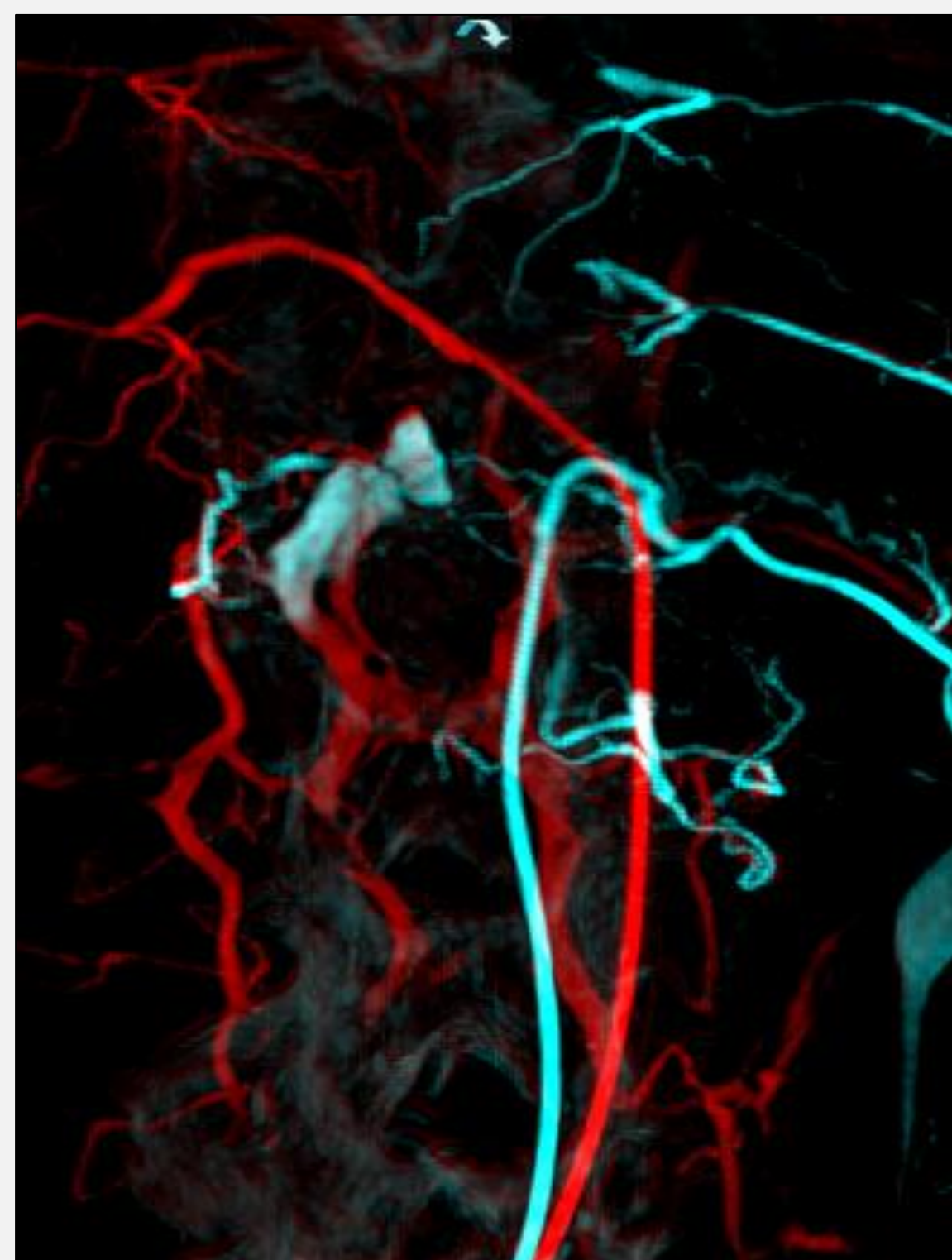


Figure.4

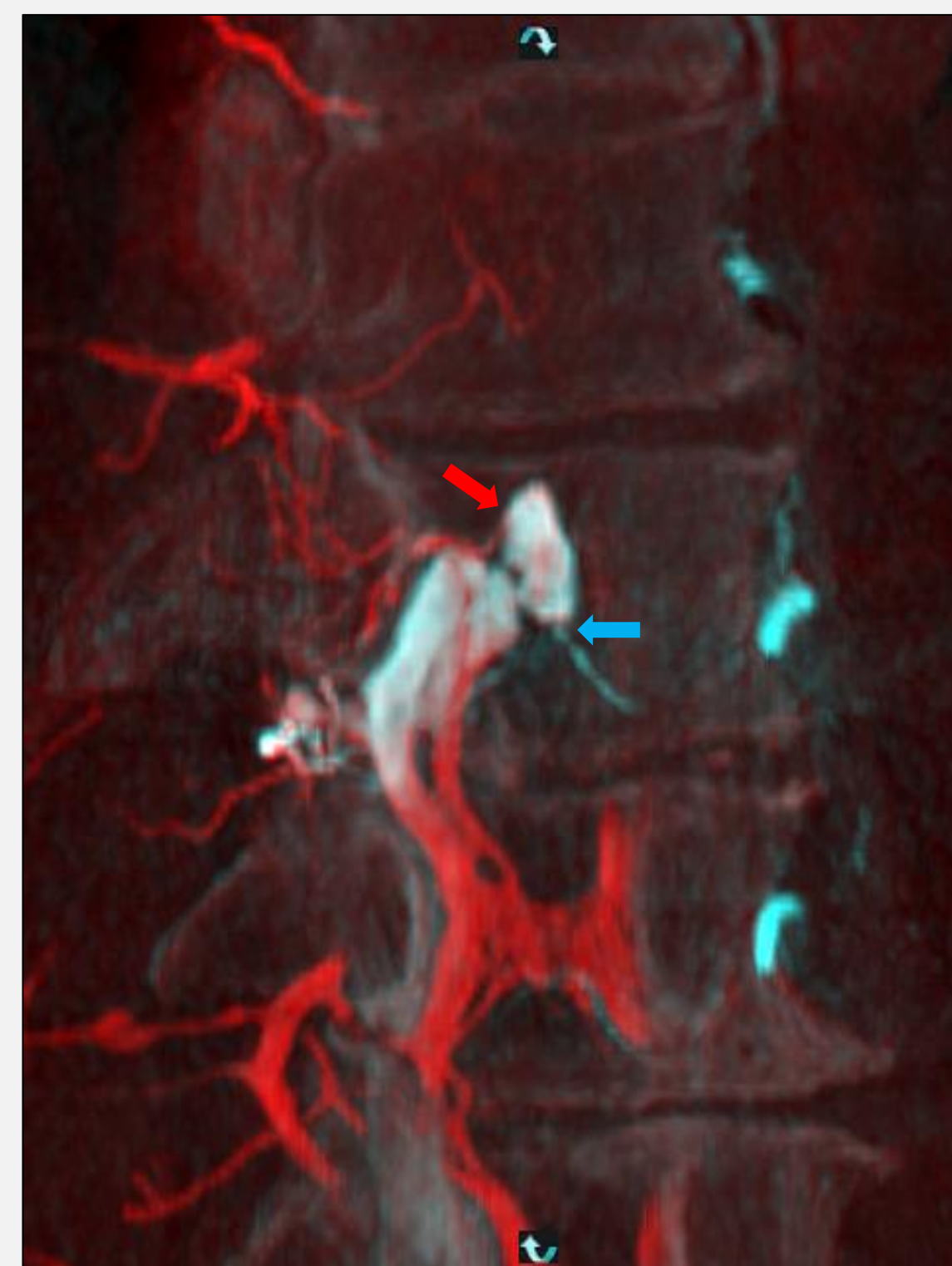


Figure.5

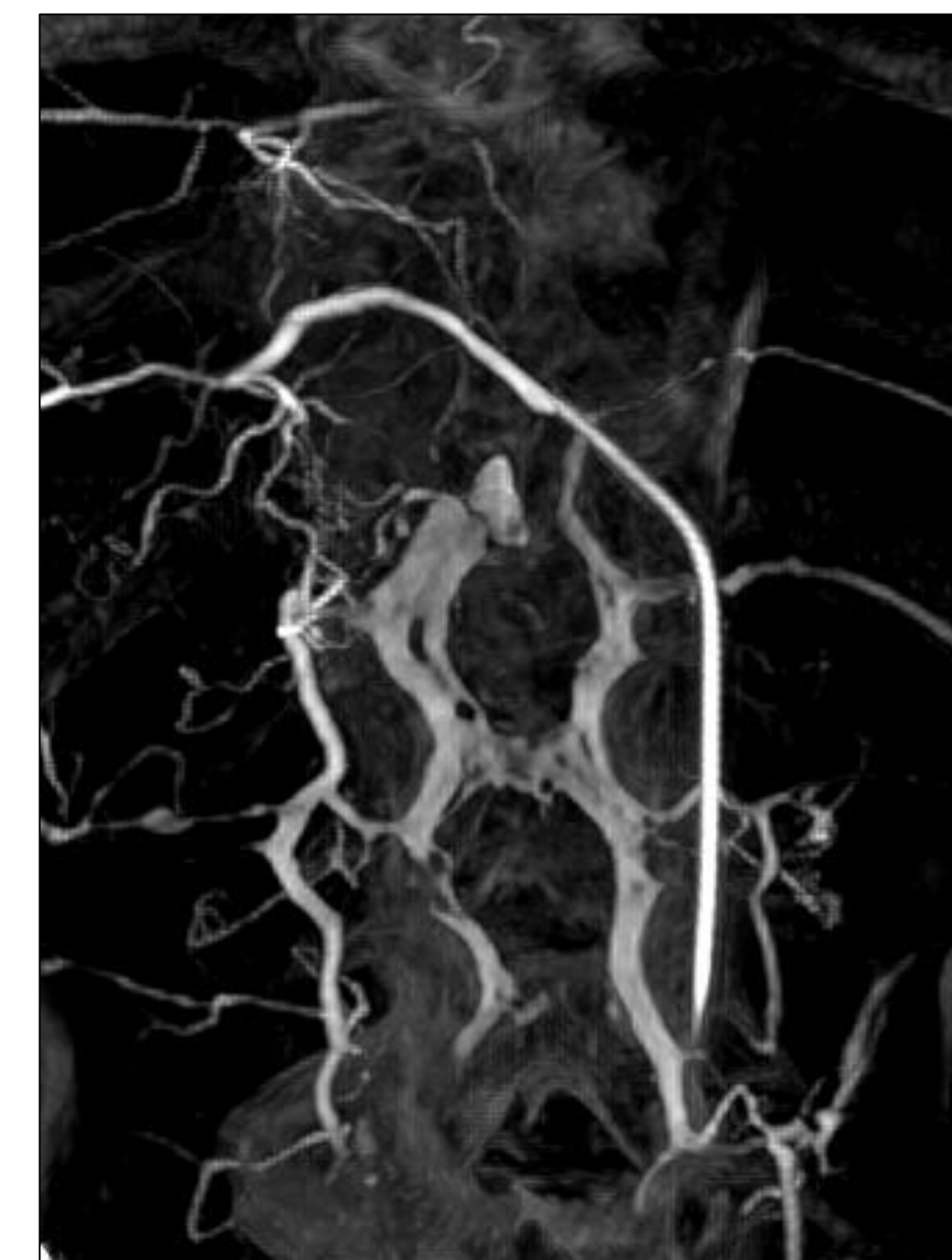


Figure.1



Figure.2

- Lt.Th12 segmental a.よりNBCAを注入し、最終撮影でTh11-L1レベルのshuntの消失を確認。 (Figure.6)



Figure.6